

設 立 趣 旨 書

近年、精神疾患やメンタルヘルスに困難を抱える人が増加している。厚生労働省「患者調査」（令和5年）によれば、精神疾患の総患者数は約603万人にのぼり、内閣府「人々のつながりに関する基礎調査」（令和6年）では、約6.5%の人が強い孤独感を抱えているとされている。精神的な不調や社会的孤立は、もはや個人だけの問題ではなく、社会全体で取り組むべき喫緊の課題である。

設立代表者を含む二人は、2014年より任意団体「ピアサポートグループ在（ざい）」を運営し、地域において、精神疾患の経験者が語り合い、支え合う場を育んできた。「話すだけで安心できた」「人と比べずにいられる場所がほしかった」といった声に後押しされながら、医療や福祉の支援が届きにくい「気分の揺らぎ」や「言葉にならない思い」に寄り添う実践を重ねてきた。

こうした取り組みを、より安定的かつ持続的に発展させるには、営利を目的とせず、地域に根ざした公益性を大切にできる体制が必要だと考えた。そのため、特定非営利活動法人として新たな体制を整えることとした。法人格を取得することで社会的な信用を高め、任意団体では難しかった行政や地域のさまざまな団体との連携を可能にし、活動基盤をより確かなものとしていく。

この法人では、精神疾患の経験者に加え、医療・福祉の専門職や研究者など、多様な立場の人々が、それぞれの視点や経験を持ち寄り、共創を土台に支援の実践を進めていく。立場の違いを活かしながら協働し、地域に根ざした新たな支援のかたちをともに育んでいく。

法人名「ピアウェル」には、同じような経験をしている人どうしが、対等な関係で支え合う「ピアサポート (Peer Support)」と、自分らしく安心して暮らせる状態を示す「ウェルビーイング (Well-being)」という、二つの理念が込められている。「今ここに在る」ことを尊重しながら、その先にあるウェルビーイングを、ともに育み、広げていくことを目指している。

今後は、対面やオンラインによる交流の場づくりや学びの機会、情報発信を通じて、孤立感を和らげ、回復につながる関係性を築いていく。支援を担う人材の育成や、制度の支援が届きにくい人々の声に耳を傾ける実践、さらに研究協力や制度改善への提言にも積極的に取り組む。日々の小さな実践から生まれる気づきや声を大切にしながら、地域の関係機関や多様な団体と連携し、誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献していく。

以上のとおり、これまでの歩みを礎とし、私たちが実現を願う社会のかたちをこの法人に託し、ここに設立趣意とする。

令和7年7月2日

法人の名称 特定非営利活動法人メンタルヘルス共創拠点ピアウェル

設立代表者 加藤伸輔